

山梨県若者海外留学体験人材育成事業(高校生コース)留学結果報告書

もし、留学をしなかったら、こんなにも、自分のことを見つめることはなかった。もし、日本を離れることがなかったら、こんなにも、日本人であることを意識することはなかった。

私は、以前、1ヶ月という短い期間のホームステイをした経験があり、さらに国際交流活動にも積極的に取り組んできたからか、訪米するまではこの長期留学を簡単なものだろうと考えていました。しかし、学校が始まり、色々な人と関わり、そして様々な問題にぶつかり、私の留学生活は、充実したものであると同時に、これまでの経験の中で一番苦しく、大変な日々の連続となりました。

これまで比較対象がなかったことから考えたことがなかったことまでたくさん経験しました。中でも一番印象的だったのは人種についてです。

私たちの住む日本と違い、アメリカは多人種国家で様々な人種の人たちが暮らしています。私の通っていた Holmen High School には Hmong という東南アジアの民族の子供達も多く通っていました。英語はもちろん独自の言語も話す彼らは、アジア系の私に親近感が湧くのか、とてもよくしてくれました。私も彼らとは話やすく、すぐに仲良くなりました。私たちが自分の文化、歴史に誇りを持っているように彼らは自分たちの文化をととても大切にしていました。ある日私がその中でも仲の良い友達と一緒に話していると、アジア系ではない一人の友達が「Are you guys relative?(君たちは親戚なの?)」と聞いてきました。私はほとんどの生徒が私を留学生だと認識していると思っていたし、お互い違う言語、文化を持っているのに同じアジア系だからという理由で一緒に考えられたことにととてもショックを受けました。

他の留学生はドイツ、ブラジル、スペイン、エクアドル、バングラデシュ出身で、どの子たちよりも私は Hmong 人に見た目が馴染んでいたから同じ民族だと勘違いされているのかと思うと、なぜかとても悲しくなりました。「私は日本人、日本人の私を認めてほしい。」と。

世界はひとつ、といいながらも、自分の生まれ育った環境、生きる姿に誰もが誇りを持っているのです。今ではこれも実際に現地で多くの人と関わって生活しないと絶対に分かり得なかったこと。私以外の日本人留学生の通う学校ではほとんどアジア系の生徒がいないから、ここで生活したからこそ、この経験ができたのだ、と前向きに考えられるようになりました。

これからさらにグローバル化が進む中で人種に関する問題にぶつかることも多くなると思いますが、異なった文化を持つ人々を尊重し、お互いを理解する上で、この経験を通して多面的な考え方を得られたことは、私の財産になるものと考えています。

また、日本とは全く異なることとして感じたものに、学校あるいは教育のシステムがあります。

ほとんどの学校には制服はなく、私服登校、染髪 OK、メイク OK という、日本とはかけ離れた学校生活、最初は青い髪の毛の子がいたり鼻ピアスの子がいたり驚きましたが、生徒が自分の好きなものを身につけて生き生きと学校生活を送っているのを見てとても良い環境に思えました。

逆に、日本の制服制度みんな同じように見える学校は外国人にとって固苦しく見えるのかなとも思いました。

学校生活では、私は留学生の中でも年上の方でありながら一番英語が話せないという、少し屈辱的な環境にいました。一番年下だったのはドイツ人の15歳の女の子で、英語も最初から普通に現地の生徒達と談笑できるほど話せていました。話を聞くとドイツ国内でも主要教科は基本的に英語での授業が当たり前だそうで、英語を話す時間も日本の1週間に1校時とは大きな差を感じ

山梨県若者海外留学体験人材育成事業(高校生コース)留学結果報告書

じました。日本でもいくつかの大学で取り入れられている英語での授業ですが、中学、高校教育でも取り入れることがグローバル人材を生むことにつながるのではないかと感じました。

アメリカの学校では授業は自分のやりたいこと、自分に合わせたクラスを選択することができます。これは、学年の壁を超えて広く学習でき、魅力的な教育システムだと思います。また、私の通っていた学校はIT化が進んでいて、生徒が一人一人コンピュータを配布され、ネット上で自分の成績をいつでも確認できます。課題の提出やテストの結果は瞬時に反映され、今の自分がやらなければならないこと、あるいは今後の課題を目に見える形で示してくれています。

日本の教育においても、このようなシステムを取り入れてもらえたら、フレキシブルで能動的な学習ができるのではないかともしました。

また、日本、アメリカばかりでなく国を問わず、今、私たち学生の間でSNSの影響力は非常に強いと感じています。お互いにつながることはもちろん、私たちはSNSを利用して自分の国について紹介しあったりもしています。

その中で、私は三月十一日に東日本大震災について、次の投稿をしました。

2011 3/11 2:46 p.m. (3/10 11:46 p.m. in US)

It's late, and my friends posted about this, but I want you guys to know about this story...6 years passed since the great east Japan earthquake and tsunami occurred. It was when I was 5th grader. I remember that we were at school in that time and we got scared. I went to home and I watched news that people, car, house, everything were swept out to the sea. I was shocked. Line was delayed that I couldn't call my dad and mom which was terrifying us. More than two million people have dead by the earthquake and tsunami. My home town was not near the point the earthquake occurred but I was shocked by watching news about these people. I saw people that was calling names who has gone by the tsunami and government couldn't find. I saw people who spent time in the gym at school. I saw It was the fourth greatest earthquake in the world since 1900. Many roads were destroyed and delayed so most of convenience stores and supermarkets didn't have stuff to sell. We couldn't get enough food. And one of the nuclear power station damaged by the earthquake and people had to leave their houses. Fortunately, all of my relatives and friends were safe. But we were shocked by what happened in our country. Even now, there are people who live with suffer, and who had to leave their own house.

This is the story what happened in the small country which is far away from here, but I believe that knowing about what happened in Japan can be support for us.

I don't know I could explain, but I wish people understood what happened 6 years ago. Pray for Japan.

当時、自分は小5で、学校で帰る支度をしている時にすごく揺れて地面に穴が開いたのかとおもってすごく怖かったのを覚えている。帰ってテレビで家も車も流されている映像、人が屋根の上で身動きが取れない映像をみて衝撃を受けた。仕事に行っているお父さんお母さんと電話が繋がらなくて本当に怖かった。もうあれから6年。今ではほとんどニュースも流れなくなってしまうけれどまだまだ震災の傷跡は残っている。

アメリカからしたら遠くの小さな国で起きたことなんか知らなかったり忘れられたりしているかもしれないけど、こうやって留学生達が伝えていって知ってもらって少しでも支えになればいいな。

山梨県若者海外留学体験人材育成事業(高校生コース)留学結果報告書

東日本大震災は、英語で説明するには難しすぎるくらい大きなことを痛感しました。

私の友達は、この投稿を受けて「自分の国では地震を体験したことがなくてこんなことが起こるなんて想像できない、自分がどれだけ幸運か考えた。」などと話してくれました。高校生の私ができることなんて限られているかもしれませんが、しかしこうやって私たちの生活に直結したSNSを使って外国の人に呼びかけ、話すことで、多くの人に日本のことを知ってもらうことも私たち留学生ができることなのだと実感しました。

先日、「日本人はどのような人種の人にも差別的な扱いをしない。日本人が外国人を避ける理由は、相手の体は大きく怖い感じがする。英語が話せないから」というコラムを読みました。帰国してまだ数日ですが、日本は世界から見ると差別の少ない、いろいろな立場の人が過ごしやすい国だと実感しています。

今回の留学で得た経験を活かして様々なことに挑戦し、日本と世界をつなぐ架け橋となるべく努力していきたいと思います。